

別紙

循環のみち下水道 環境教育の取り組みについて

1. 懇談会設置の背景

- ・下水道は、都市の環境改善や水質の保全だけでなく、地球温暖化対策や良好な水環境の回復、資源・エネルギー循環など環境に対して多用な役割。
- ・下水道は身近な存在であり、生活環境から地球環境までの幅広い環境問題にも関わっていることから、下水道が環境教育に果たす役割は非常に大きい。
- ・懇談会では、分かりやすい教材作りと具体化するためのプログラムづくりを軸として検討

委員名簿（2009年7月時点）

慶應義塾大学 経済学部 教授	岸 由二
横浜市環境創造局経営担当政策専任部長	久保田 仁
東海大学 特任教授	小澤 紀美子
日能研 教務本部 研究開発課	清水 智子
○国土交通省 都市・地域整備局 下水道部 下水道企画課長	田辺 義貴
消費生活アドバイザー バルディーズ研究会運営委員	角田 季美枝
東洋大学 文学部教育学科 教授	寺木 秀一
横浜市立つづきの丘小学校 副校長	野口 美保子
子どもの水辺サポートセンター長 河川環境管理財団審議役	宮尾 博一

2. 懇談会の議論のポイント

枠組みについて

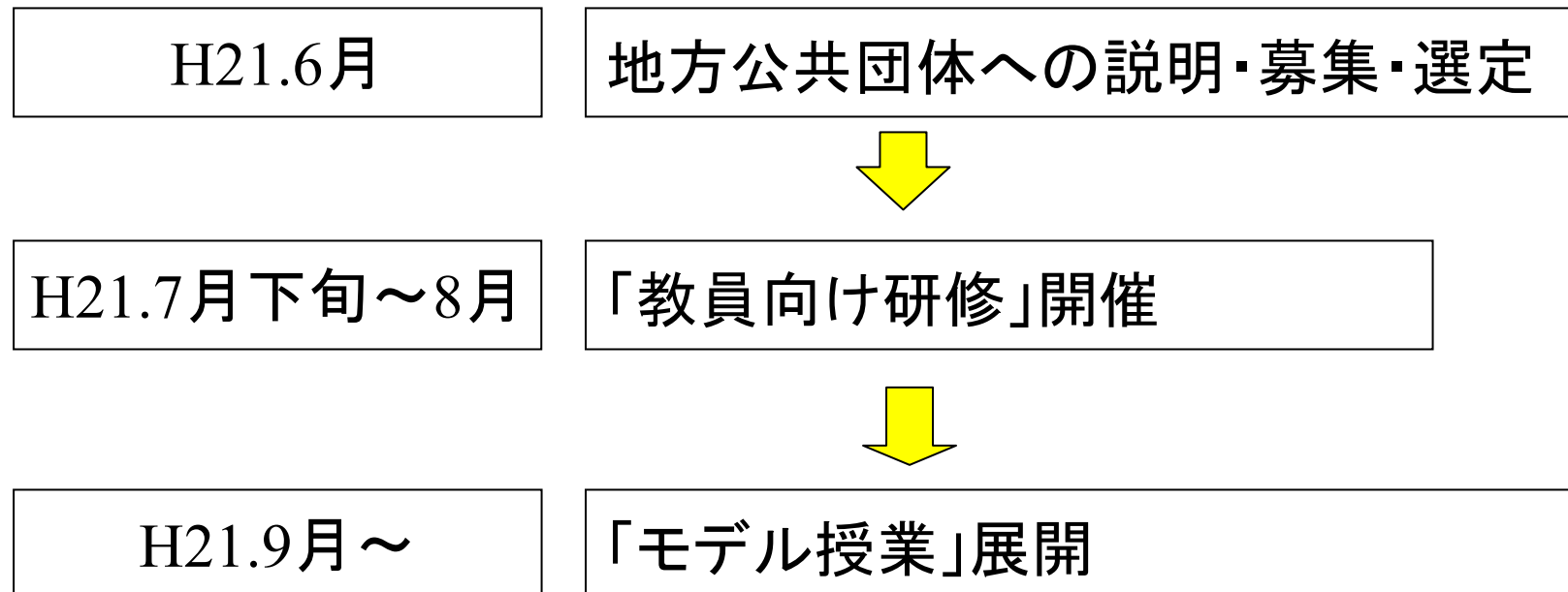
- ・計画に沿って必ず実行される各教科・単元をメインターゲットにし、特定の単元において利用可能な教材とする。
- ・下水道については教員にもほとんど理解されていないことから、まずは教員に下水道を理解して頂く必要がある。
- ・最初のターゲットとして、意欲・経験のある教員を対象に指導案を作成してもらい、モデルプログラムとして実施し、次の段階で一般に広げていくという2段階方式での普及を図ることが効果的である。

教員研修について

- ・夏休み期間中に実施される教員研修の場を利用して、下水道分野の理解を深めて頂きながら、指導案を共同で作成するワークショップを行うことが効果的である。
- ・下水処理施設等の現場見学を含めた体験型の研修を行うことが効果的である。
- ・行政が各教科・単元と下水道とのかかわりを示した上で、具体的な指導案の作成に当たっては教員が中心となって作成してもらうのが効果的である。
- ・参加していただいた教員に、即授業に使えるような素材をCDなどとして提供するとよい。さらに、環境教育に対する助成金のような仕組みがあるとよい。

3. モデルプログラムの実施

「循環のみち下水道環境教育モデルプログラム」の実施スケジュール案(平成21年度)



目指すべきアウトプット

- 学習指導案や実施事例・活動人材(技術者OB等の活用)等に関する**情報プラットフォーム**の構築
- これらに対する**支援制度**(基金等を想定)の確立

5. 教員向け研修の概要

●研修の趣旨

- ・現地見学等を取り入れ、下水道を「見える化」する研修を行い、下水道が果たすべき機能を教員の方々に正しく認識。
- ・ワークショップを通じて学習指導案を作成し、小学校で下水道環境教育を実践できるよう支援。



●研修内容(一例)

- 10:00 ~ 解説① 下水道の基本理念・概要
- 11:00 ~ 下水処理場現場見学
- 12:30 ~ 休憩
- 13:30 ~ 解説② 教科・単元と下水道のかかわり
- 14:00 ~ ワークショップ(班別に学習指導案作成・発表)
- 16:30 ~ まとめ

